

学部 / 看護専門領域 / 看護援助の方法

科目コード : 140004

## 成人・老年看護方法論演習Ⅱ Practice:Adult and Gerontological Nursing Ⅱ

担当教員	中道淳子、牧野智恵、川島和代、紺家千津子、松本勝、松本智里、大西陽子、額奈々、今方裕子、瀧澤理穂、大橋史弥				
実務経験	複数の教員が担当しており、全員に病院勤務経験がある。				
開講年次	3年次前期	単位数	1	授業形態	講義・演習
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	老年期、回復期、慢性期、介護保険施設、看護展開				
学習目的・目標	目的： 紙上事例から、老年期（一部成人期を含む）に起こり易い健康問題のアセスメント、看護援助計画・立案の知識・技術を習得し、看護過程が展開できる能力を養う。 目標： 1.ヘルスケア・アセスメントの技法について習得する。 2.紙上事例中に提示された事実から、看護に必要な事実を選び出し、部分的・断片的な情報の意味を考え関連づけて、対象であるその人全体の中に位置づけることができる。 3.高齢者（一部成人）が健康的に生きていくための視点をもって、看護の方向性・援助計画を立案できる。 4.対象にあわせたケアの手順書を作成することができる。				
授業計画・内容					
回	内容				
1-2	ガイダンス 老年看護における看護過程の展開 【演習1-1】看護過程の展開：脳血管障害による片麻痺の患者への看護（事例提示）				
3-4	【演習1-2】看護過程の展開：脳血管障害による片麻痺の患者への看護（展開の具体的な方法）				
5	【演習2】脳血管障害による片麻痺の患者への看護 運動・排泄機能障害：移動・移乗動作の援助				
6-9	【演習3-1】看護過程の展開：（グループワーク）認知症があり介護老人保健施設で療養する高齢者（一部成人）への看護 事例提示・情報の整理、病態の押さえ、全体像看護の方向性、看護計画立案				
10	【演習3】看護過程の展開：（グループワーク）認知症があり介護老人保健施設で療養する高齢者（一部成人）への看護 発表・全体討議・まとめ				
11-12	【演習4】（グループワーク）認知症があり介護老人保健施設で療養する高齢者（一部成人）への看護 ケア計画立案、手順書作成【演習5】【演習6】				
13-14	【演習5】足浴・フットケア 【演習6】認知機能障害への非薬物療法				
15	高齢者の意思決定支援 ・高齢者とのコミュニケーションについてプロセスレコードを用いて考える				
教科書	系統看護学講座：成人看護学総論、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2～11 水谷信子他編、最新 老年看護学、第4版、日本看護協会出版会、2022.				
参考図書等	疾病・障害で使用したテキスト 看護学大辞典6版（電子版）メヂカルフレンド社				
評価指標	レポート課題80%、筆記試験20% *講義、グループワークの時間数の2/3以上の出席がなければ、試験は受験できず、評価の対象にはならない。 *授業態度において、事前課題に取り組んでいない場合や、遅刻等の場合、減点の対象とする。				
関連科目	本科目の履修条件は、基本的に成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護学概論、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱを履修し、単位認定されていることとする。 関連科目：成人看護学概論、老年看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ、成人・老年看護方法論演習Ⅰ・Ⅱ、成人・老年看護学実習（急性期）、成人・老年看護学実習（慢性期）、解剖生理学／演習、代謝と栄養、疾病・障害論Ⅰ～ⅡC、フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ、薬理学など				
教員から学生へのメッセージ	高齢者（一部、成人）への看護援助技術を展開することは、自立と依存の関係に目を向けることです。 この単元を習得し、自分の知識と関心を高齢者（一部、成人）に表現する技を身につけていきましょう。				